

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597200017		
法人名	社会福祉法人和木三志会		
事業所名	グループホームわきあいあい苑		
所在地	山口県玖珂郡和木町瀬田4丁目1番1号		
自己評価作成日	令和 3年 9月 27日	評価結果市町受理日	令和4年4月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和3年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれ、春には桜、5月にはバラ、秋には紅葉といったように自然豊かな立地を活かして、散歩に出かけ季節を感じていただいています。しかしながら、新型コロナウイルスの影響で外出を控えている状況です。施設内で行事・行事食で季節を感じていただけるよう取り組んでいます。食事は毎食手作りの物を提供し、入居者からリクエストを聞いたり、可能な時はおやつも手作りの物を提供し温かみのある暮らしをしていただけるよう心掛けています。特養とデイサービスが併設されており、相談や協力しあえる体制作りも行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事は、利用者の好みを取り入れた献立で、三食とも事業所で調理されています。新鮮で旬な食材を取り入れられて、食器や盛りつけにも配慮され、季節感あふれる食事を提供されています。利用者はテーブル拭きや下膳、お盆拭きなどできることを職員と一緒にされ、職員と同じテーブルで会話を楽しみながら食事されています。季節の行事食では、ひな祭りのちらし寿司や節句の鯉のぼりに見立てたお寿司、七夕の星飾り付きのソーメン、敬老会の松花堂弁当など、利用者が楽しめる献立になっている他、誕生会の手作りケーキやバラエティに富んだおやつ作りなど、食事が楽しみとなるように色々と工夫されています。コロナ禍で外部との交流ができない中、利用者一人ひとりの趣味や楽しみごとを把握されて、本人の好きなレクリエーションを楽しまれたり、個々に合った役割に取り組みされている他、天気の良い日は法人の敷地内を散歩されたり、外気浴をされたり、裏庭の桜や梅でお花見を楽しんでおられるなど、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ実践できるように努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は、利用者とその家族が「安心して過ごせる」ように、それぞれの思いに寄り添うことに気をつけて、理念を共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流を図る機会を設けることができていない。	今年度は、コロナ禍の影響により、自治会や地域の行事、法人主催の夏祭り、法人が開催するお茶会、中学生の体験学習、ボランティアの来訪、法人のディサービスやショートステイの利用者との交流が中止となり、地域の人と触れ合う機会がなくなっている。散歩は、施設の敷地内や裏庭に出かけており、近所の人と出会うことはない。利用者は、毎月配付される町の広報や地域包括支援センター職員から地域の情報を得ている他、隣接する法人の他部署の職員とは事業所内で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は機会がなかった。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価を職員同士で確認しあい、意見交換を行っている。	管理者は、申し送り時に評価の意義について、職員に説明している。自己評価は、前回の評価結果を基に、職員一人ひとりから意見を聞いて、管理者がまとめている。自己評価を通して、コロナ禍で外出や地域との交流が持てないことの課題から、事業所内で楽しめる行事の工夫に取り組んでいる。前回の目標達成計画に掲げた緊急時の対応については、新型コロナウイルス感染症を中心とした感染予防対策に取り組んでいる。	・項目の理解と活用

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で集まっての話し合いは行えていないが、2ヶ月毎に書面にて状況報告を行い、ご意見も書面にいただいている。	会議は2ヶ月ごとに開催している。この1年間は、すべて文書開催とし、参加者には利用者の状況や事業所の活動報告、研修会報告、防災訓練の状況報告、感染症対策などの資料を送付し、意見や感想を書面で受けている。家族の希望から、窓越し面会やリモート面会での対応を工夫したり、地域包括支援センター職員から町が推進している体操の情報提供を受けて実施するなど、意見をサービス向上に活かしている。	・運営推進会議を活かした取り組み
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の資料を持参する時や電話でお話する時に情報交換や相談・助言をいただいている。	町担当者とは、更新手続きなどに直接出向いたり、情報交換や電話をして助言を得るなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話で相談したり、入居者の待機状況を伝えて情報交換を行うなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を年2回行っており、身体拘束廃止委員会にも参加している。	職員は、「身体拘束廃止に関する指針」を元に年2回法人研修で学び、正しく理解して身体拘束しないケアに取り組んでいる。管理者は、年2回法人の身体拘束廃止委員会に参加して、職員に報告している。職員のスピーチロックに気づいた時には管理者がその都度指導している。玄関は施錠しておらず、利用者が外に出たい場合は職員と一緒に出かけたり、傾聴して気分転換を図るようにしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行っており、虐待の発生又はその再発を防止するための委員会にも参加している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に沿って十分説明し、納得いただいてから契約している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付体制について説明している。面会や電話時に意見や思いを聞いている。	契約時に相談、苦情の受付体制や処理手続きを本人や家族に説明している。家族からは、面会時や運営推進会議時、電話などで意見や要望を聞いている。年1回の事業所だよりや行事の写真を送付したり、面会時に日頃の様子を伝えたり、管理者が受診結果や体調が気になる時など、その都度電話で連絡するなど、家族が意見を言いやすい工夫をしている。家族からの意見や要望は、個人日誌に記載すると共に、職員には申し送り時に伝えるなど、その都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕の申し送り時や日常の介護の中で気になる点を随時意見を出し合っている。	管理者は、朝夕の申し送り時や日頃の業務の中で職員の意見や提案を聞いている他、年に1回職員のストレスケアチェックを行っている。職員は、コロナ禍の中にあって、国や県のガイドラインに沿って普段の行動制限を行い、感染予防に努めると共に、職員の有給休暇の取得状況を確認するなど、働きやすい環境づくりに努めている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇の取得をしやすようにしたり、キャリアパスの導入を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て施設内研修を行っている。外部研修はコロナ禍で研修自体がほとんどない状況なので参加しようにもできていない。	外部研修は、職員に情報提供し、経験や段階に応じて受講の機会を提供しているが、コロナ禍で研修の中止も多く、この1年間はオンライン研修を一件のみ受講している。法人研修は、食中毒予防、非常災害対策、身体拘束廃止、介護事故防止、褥瘡予防、在宅サービス、感染対策、虐待防止、看取り介護、認知症ケアをテーマに毎月実施している。欠席者には資料を基に申し送りで伝え、資料を回覧している。資格取得については、参加者の勤務調整を行うなどの支援を行っている。	・計画的な研修の実施
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟している。併設している特養・デイサービスと交流を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行って要望を伺ったり、ご家族やケアマネージャーから情報を収集している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から連絡を取り合っ、要望や質問を伺う等、話し合える時間を作っている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の意向を聞き、ケアプランに反映させている。必要・要望に応じて他のサービスの利用も検討するよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で個々の能力に応じて役割を持っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話にてご家族と情報を共有し、悩みや思いも聞きながら一緒に支えていけるよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出ができない状況と併設の特養・デイサービスを利用されている馴染みのある方とも交流を控えている。	コロナの感染状況と家族の希望に応じて、玄関や居室での窓越しやアクリル板での面会、オンライン面会などの対応の工夫をしている。年賀状や手紙のやりとり、電話での家族との交流を通して、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方と席を隣りにしたり、職員が間に入り会話がスムーズにできるようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近では死亡にて契約終了となっているので、相談を受ける機会がないが、あれば対応に努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から意向を聞くと共に、日頃の生活状況・発言により思いを把握できるように努めている。	利用者情報を活用している他、日々の関わりの中での利用者の行動、表情、会話などを援助記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。利用者の担当職員が毎月ケア内容のアセスメントを行い、ケアプランに活かしている。把握が困難な場合は、家族からの聞き取りや日頃の本人の様子や言動から読み取り、職員間で話し合っ本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴などをご家族や他のサービス事業所から協力していただき情報収集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状況を見ながら、職員間で申し送りを行ったり、日誌への記録を行い状態把握している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の意向も聞き、職員間で検討し介護計画を立てている。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、年1回の見直しも行っている。状態変化が見られた時も見直しをしている。	計画作成担当者や利用者の担当職員を中心に、ケアカンファレンスを月1回開催し、利用者や家族の要望、主治医や法人看護師、職員の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、年に1回見直しをしている他、利用者の状態が変化した時はその都度見直し、状態に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに日々の状態を記録し、勤務前に目を通している。重要な内容は申し送りで詳しく説明を行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて職員間で話し合いを行ったり、医師に相談助言をもらっている。遠方のご家族に代わって支援も行えるように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの方々から情報をいただくことがあるので、活用できるようにしていきたい。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の了解を得て、協力医療機関をかかりつけ医としている。往診や必要時に連絡を取り、指示を受けている。指示の内容はご家族にも説明をしている。	利用者、家族の同意を得て協力医療機関をかかりつけ医としている。週2回の訪問診療があり、受診の結果は面会時や電話で家族に伝えている。他科受診は家族の協力を得ており、職員は口頭で情報提供を行っている。希望により訪問歯科の受診もあり、月1回薬剤師が服薬相談に来訪している。緊急時や夜間は管理者に連絡した後、法人看護師が協力医療機関と連携し、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養看護職員に相談し、時には状態を診てもらい対応方法のアドバイスをもらっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族や病院関係者と情報交換し、入院前の生活ができる状態で退院できるよう、相談も行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時には、ご家族に状態説明と共に、どのように対応していくかの説明も行い、ご家族の思いも確認しながら、医師・看護職員とも連携をとっている。	重度化に関する指針があり、重度化した場合に事業所ができる対応について契約時に家族に説明している他、アンケートで家族の意向を聞いている。実際に重度化した場合は、利用者や家族の意向を再度確認し、医師や法人看護師、職員と相談し、併設施設や医療機関への移設を含めて方針を決め、全員で共有して支援に取り組んでいる。看取りにも対応し、研修を実施している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生防止の為の委員会や施設内で研修を行っている。事故・ヒヤリハット報告書を記録し、対応策を全職員に周知徹底している。	ヒヤリハット・事故報告書に記載して、その都度当日勤務の職員で話し合っている。他の職員には翌日の申し送り時に報告した上で報告書を回覧している。管理者が月1回、法人の事故発生防止委員会に出席し、報告して再発防止に取り組んでいる。事故発生時の対応として、法人看護師から感染症対策について学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員での応急手当や初期対応の定期的訓練の実施の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内の研修や昼・夜間の想定で火災訓練2回、防災訓練1回、計3回行っている。	法人全体で昼・夜間設定の火災を想定した避難・消火・通報訓練、避難経路の確認を年に2回、台風を想定した防災訓練を年に1回利用者も参加して実施している。法人として災害時の地域の要支援者の受け入れ体制を整備しており、米や缶詰などの食料品、飲料水などを用意している。法人全体での協力体制はできているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者虐待防止等の研修を行い、不適切なケアについて学び、一人一人に合った対応・声かけを心掛けている。	職員は、法人研修で学び、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な声かけや対応に気づいた時は、その都度管理者が注意している。個人情報鍵のかかる場所に保管し、職員は守秘義務に留意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声かけを心掛けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事以外の時間は個々のやりたい事(テレビ・塗り絵等)を行ってもらっている。横になりたいと希望があれば、お昼寝もしていただいている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時に衣服を選んでもらっている。化粧品を使用する方への声かけ・介助も行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日には、その方のリクエストに合わせて食事を提供したり、行事食や手作りのおやつを提供している。片付け等、本人の能力に合わせて行ってもらっている。	食事は、職員が利用者の好みを取り入れた献立をたて、三食とも事業所で調理している。新鮮で旬な食材を取り入れ、食器や盛りつけ、飾り付けに配慮して季節感のある食事を提供している。利用者の状態に合わせて、キザミ食など食事形態にも工夫している。利用者はテーブル拭き、下膳、お盆拭きなどできることを職員と一緒にしている。利用者とは、会話を楽しみながら同じものを食べている。季節の行事食(おせち、節分のイワシ、ひな祭りのちらし寿司、節句の鯉のぼりに見立てたお寿司、七夕の星飾り付きのソーメン、敬老会の松花堂弁当、クリスマス等)や誕生会の手作りケーキ、おやつ作り(羊羹、ぜんざい、ホットケーキ、パンケーキ、カップケーキ、スイートポテト、プリン、饅頭、りんごのコンポート等)など、食事が楽しみとなるように工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録をし、食事以外の時間にも水分補給を促している。食事形態も個々に合わせて食べやすいようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行ってもらっている。仕上げ磨きが必要な方の介助も行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿訴え時には対応するのはもちろん、排泄チェック表を記入し、間隔も確認しながら、声かけ・誘導を行っている。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日朝食時にヨーグルトを提供したり、水分をあまり摂らうとされない方には水分補給を促している。排泄チェック表により排便の確認を行い、状態により下剤の使用も行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員が1対1で対応し、ゆっくり入浴していただいている。体調や拒否がみられた時は日にちを変更している。いろいろな香りの入浴剤も使用している。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のペースや体調によって昼寝もしていただいている。居室の状態や体質に合わせて室温管理を行い、快適に休んでもいただけるようにしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自のファイルに処方箋を綴じており、確認がすぐにできるようにしている。服薬の介助も必要に応じて行っている。排便状況に応じて、下剤の調整も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみやゴミ箱作り等、個々にあった役割をもっていただいている。季節の行事を行ったり、塗り絵やパズル等、希望に合わせた楽しみごとも行ってもらっている。	テレビ(ニュース、歌番組、スポーツ番組、録画番組)、ぬり絵、貼り絵、ちぎり絵、折り紙、新聞や雑誌を読む、脳トレ(漢字、計算、間違い探し)、書き初め、カードあわせ、カルタ、トランプ、パズル、風船バレー、歌を歌う、ラジオ体操、口腔体操、あいうべ体操、足指の運動、季節行事、おやつ作り、季節の作品づくりなどを楽しみ、洗濯物たたみ、タオルたたみ、テーブル拭き、お盆拭き、下膳、ゴミ袋づくり、ゴミ捨て、カーテンの開閉など、活躍できる場面づくりをして、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に出たい希望があれば苑内の庭を散歩していただいている。その他はコロナ禍で難しい状況です。	法人の敷地内を散歩したり、裏庭に咲いている桜や梅のお花見を楽しんだり、外気浴を楽しんでいる。法人施設内に設置される神社に初詣に出かけるなど、コロナ禍で外出制限の多い中、施設内で出来ることを考え、気分転換を図れるように工夫している。家族との受診時に気分転換を図っている利用者もいる。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出できる時は自分で選んで購入していた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の取次ぎや施設からご家族に電話をした時も、ご本人と話せる時間を設けている。手紙のやり取りも行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温管理を行ったり、季節にあった貼り絵や製作してもらった作品を飾ったり、お花を生けたりしている。	共用空間の食卓や洗面所には季節の花が飾られ、壁には職員と一緒に作成した季節の作品や貼り絵、ぬり絵、習字の作品が飾っており、季節感を感じることができる。畳コーナーは洗濯物をたたんだり、横になってくつろげる場所になっている。対面式の台所からは調理の音や匂いがして生活感や家庭的な雰囲気を感じることができる。室内の温度や湿度、明るさ、換気に配慮し、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席以外にソファで座ってくつろげるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていたダンス等、使い慣れた物を持ってきてもらったり、写真やぬいぐるみ等、思い出もある物も持ってきてもらっている。	テレビ、いす、ダンス、衣装掛け、三段ケース、時計、カレンダー、人形、ぬいぐるみ、アルバム、造花など使い慣れたものを持ち込み、家族の写真やぬり絵、折り紙などの作品、職員からの誕生日カードなどを飾って、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口やトイレなど見えやすいように大きめの名札をかけたっている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム わきあいあい苑

作成日: 令和 4 年 4 月 15 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	外部評価の理解を深める必要がある項目がある。	項目毎の理解を深め、サービスの質の向上に努める。	山口県地域密着型サービス評価項目ガイド集を活用し、一つ一つの項目の考え方を今一度確認し、より良いサービスが提供できるようにする。	12ヶ月
2	35	応急手当や初期対応の訓練は行ってはいるが、定期的にというところまで至っていないので、全職員がどのような状況下でも対応できるようにしておく必要がある。	どのような状況下でも、落ち着いて的確に対応ができるようになる。	いろいろな状況を想定し、実践的な訓練を行っていく。また併設の特養の看護師にも協力をお願いして、手当の方法やアドバイスももらうようにする。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。